

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2022年 司教年頭書簡 「コロナ時代を生きる信仰Ⅱ 「キリスト者の終活を始めよう」を受けて 第9回 今も死を迎える時も

「神の母聖マリア、わたしたち罪びとのために、今も、死を迎える時も、お祈りください」

「キリスト者の終活」という時、この祈りをささげ続けることだと思います。わたしたちは、この祈りを大切にし、よくささげています。終活は、この祈りを、ていねいに、心を込めてささげることだと思います。

この祈りは、「わたしたち罪人」のための祈りです。「わたし」のための祈りではありません。共同体みんなのための祈りです。すべての人のための祈りです。まわりの人に支えられなければ生きていけない自分を見つめる祈りです。そして、わたしたちが皆、「罪びと」であることを告白する祈りです。何か悪いことが起こった時、皆でふり返り、皆で新たな歩みを始めるための祈りです。

この祈りは、大切なことを思い起こさせてくれます。それは、死を迎える前に、大切な、かけがえのない「今」があるということです。死は、訪れることではなく、「今」の積み重ね、「今」の完

成ではないでしょうか。そのように考えると、終活は、「今」を大切に生きることではないでしょうか。まわりのいのちの「今」を大切にすることは、ではないでしょうか。

10月は、「ロザリオの月」です。まわりの人、すべてのいのちを大切にすることで、「今」を生きていけるよう、「今」の完成の時である「死を迎える」ことができるよう、「アヴェ・マリアの祈り」をささげたいと思います。

京丹ブロック担当司祭

マリスタ会 一場 修



「今を大切に生きる」哲学の道にて
筆者撮影

10
2022

第15回 戦争と平和写真展

京都教区カトリック正義と平和協議会

報告 北村由紀子

8月6日(土)、7日(日)の2日間、今年も河原町教会地下のヴィリオンホールにて戦争と平和写真展を開催しました。例年通り河原町教会のお知らせで案内していただいたり、今年はペシャワール会から会員へのお知らせもあり、コロナ禍が続く中ですが、2日間で延べ120名に上る来場者がありました。

今回のテーマは、「沖繩・フクシマ・アフガニスタン」。

敗戦後77年目となりましたが、15年前から毎年開催している「戦争と平和写真展」は、見る人の心にどのような響き、映ったのでしょうか。会場入口の「焼き場に立つ少年」の写真の、幼い弟を背負



教皇フランシスコが配布された「戦争がもたらすもの」のカードより

い、唇を結んで、健気にそして凛としている姿が、「出征兵士の家族写真」の兵隊を送り出した家族の思いが、どのように映ったのでしょうか。

「アフガニスタン」

2019年、アフガニスタンで銃撃されて亡くなられた中村哲医師の活動を中心としたペシャワール会の現地スタッフの様子、干ばつで砂漠化した農地復旧のための「緑の大地計画」、などの現地の報告を、写真、DVDで見ることができました。「地の塩のように」命の活動に生涯をかけて取り組まれる姿に心打られました。



「沖繩」

オキナワ平和サポーターからは、今年も新しい写真を含めて

辺野古の現状、

カクレクマノミ

などの美ら海の

写真、辺野古基

地反対運動に対

する海上保安庁

の現状など、現

地でしか目にすることができない状況を知ることができました。辺野古基地建设

のための埋め立て工事の写真は、地元の人々

々々と思いを共感できているのかと考え

させられました。

「フクシマ」

フクシマは河北新報から写真提供をいただきました。原発事故の当時の様子、津波の犠牲、その後の人々の生活など、街は復興できたかもしれませんが、津波と放射能の被害を受けた人たちの、まだ終わっていない被害の現実を知りました。

これらの写真を通して、弱い立場にある人達に対する関心と活動を積み重ねて、天の国の「からし種」となることが大切だと感じました。



来場者の感想

★毎年写真展を開催していただきありがとうございます。ペシャワール会の中村医師の献身的な活動は、アフガニスタンの人々の命を救うと同時に、人びとの愛のつながりになりましたね。8月6日広島に原爆が落とされた日。もう二度と核兵器のボタンはおされませんように。

★沖繩の海上行動は知っていましたが、海保の酷い暴力は全く知りませんでした。税金はこんなことのために払っているのではないのに！もっと報道すべきですね。



★わかりやすく展示してくださって有難うございます。

このようなたくさんの中村哲さんのお写真を見るのは初めてです。アフガニスタンの方々と、すばらしく良い人間関係の中でお仕事をなさっていたご様子がわかりました。人間として、また日本人として大変誇らしく思いました。原発のことは、地元出身者として言葉や写真では表現するのは難しく、十人十色の思いがあると思います。河北新報に協力を求めてくださってありがとうございます。

★ペシャワール会の展示はすばらしい。よく理解できました。沖繩の問題を毎年取り上げてこられて、良い写真展でした。3・11震災の記憶も忘れていく人が多い中、貴重な写真でした。

★大きなテーマでの取り組みを準備していただいたこと感謝です。大きな学びの時間となりました。日々何事もなく過ごしている自分の生活から見えなかった現実を



見る時となりました。★ボリュームがたくさんあり、見ごたえがありました。それぞれの社会問題の現在の状況を知ることができて良かったです。

★一度だけ中村哲さんのお話を直に伺ったことがあります、その時に大学生の方がした「どのような理念でこのような活動をされているのか」という質問に、「理念なんてありません。知ってしまった以上は素通りできないから」と即答されたことが強く印象に残っています。まさに本来の意味の「積極的平和主義」を生き抜かれた方でした。フクシマ・沖繩：人の生活を破壊し、尊厳を踏みにじる行為が、さも成長や進歩、そして平和のためであるかのように進められています。中村哲さんの生きざまを思い起こし、あきらめずに自分の生活の場から立ち向かい続けたいと思いを新たにいたしました。



典礼委員会担当司祭 菅原友明

今月のポイント

「聖なる、聖なる、聖なる神」

「感謝の賛歌」も口語に変更

「万軍」は消滅

司祭が唱える叙唱の結びは「終わりにくほめ歌います」、「つつしんで讃えます」など会衆を「感謝の賛歌」へと招く言葉になっています。これにに応じて会衆は「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主…」と唱えてきました。が、今回の改訂では、ここも口語文に改められ、「聖なる、聖なる、聖なる神、すべてを治める神なる主…」となります。現行の「万軍の」は戦いを連想させ不適

切だということ、かねてから変更が求められていたようです(※1)。「万軍の」と訳されてきた語は、ラテン語で「サバオート」、ヘブライ語の「軍隊、軍勢」を意味する言葉に由来しており、語感で考えると「万軍の神」は名訳でしたが、今後は「すべてを治める神」になります。これは「日本への適応」というよりも「時代への適応」と言えるでしょう。いずれにせよ表現されているのは「全能の神の力強さ」という点です。この賛歌の結びで唱える「ホザンナ」はヘブライ語の「どうか救ってください!」という言葉に由来しています。囚われの身となっている私達を救いに来てくれる強力な軍隊のように、神様には私達をお救いになる力があることを、この賛歌を歌って讃えるのです。

そもそも、どうしてこの賛歌は、「感謝の賛歌」と呼ばれているのでしょうか。まず、直前に司祭が叙唱で物語った神の救いの業への感謝を込めて捧げる歌だからであり、さらには、この賛歌が奉献文(「エウカリスティアの祈り」感謝の祈り)の附随物などではなくて、まさに「感謝の祈り」そのものの一節として全会衆で唱える歌だからです(※2)。そして究極的には、ミサ(感謝の祭儀)全体にとってのこの賛歌の重要性という視界も

開けてくるはず。こう考えると、この賛歌を歌うときの感謝の込め具合も深まっていくのではないだろうか。こうした意義を汲み取って、日本語では「感謝の賛歌」という表題をつけてきました。が、世界ではラテン語の出だしの一語をとった「サンクトゥス」(聖なる)と呼ばれることも多いため、今回の改訂で表題は「感謝の賛歌(サンクトゥス)」と表記されるようになります。

ところで、これまで「感謝の賛歌」を唱えるとき、先唱者が最初の「聖なるかな」を唱える慣習になっていました。今後はどうなるのでしょうか。「聖なる」だけだと短くて言いづらいので、「聖なる、聖なる、聖なる神」までになっていくのでしょうか。それに関しては特に定められていません。各教会で望ましい形を模索していくことになるでしょう。なお、「感謝の賛歌」を歌唱する場合は、これまで通り「聖なるかな…」と歌うことができます。

※1 カトリック中央協議会『新しい「ミサの式次第と第一」第四奉献文』の変更箇所 36頁参照

※2 『ローマ・ミサ典礼書の総則(暫定版)』7

トマのつぶやき

「ロザリオ、このザイルによって、私は…」



十月、神無月、日本の神々はこの月、みんな出雲にお集まりになるそう。めでたい。

十月、ロザリオの月。私たちも集まって「ロザリオ」を祈る。

ロザリオはバラの冠、バラの園、コンタツとも言う。

子どもが、母親の側で無心に遊ん(play)でいる。それは彼らの祈り(pray)でもある。

私たちのママ、マリア様に賛美と喜びの冠であるロザリオを編もう。祈りの花輪であるロザリオを編みながら、お母様のことを黙想している。その母の傍らには、いつも御子イエス様がいらっしゃる。

イエス・キリストは「インマヌエル(私たちとおられる神)」なのだ(マタイ1・23、ヨハネ1・14、マタイ28・20参照)。イエス様のご生涯には、いつも側にマリア様を見る(典礼歴はそれを祝う)。そして、御子の中にいつも共におられる御父と聖霊(三位の交わり)を観想する。

主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱は、この現実をロザリオの祈りの中で体現している。ロザリオは、祈りの「機械的なくり事」では決してない。むしろ「福音の要約」だと言う(教皇パウロ六世)。それは、幼児洗礼の私の幼い頃のまさに「カテケージス」だったのだ。子どもは難しい神学を語られてもわからない。でも家族と一緒に唱えるロザリオと朝夕の祈りは、何よりも大切な一級のカテケージスだった。確かに今でも私の信仰は、子どものように愚かなもの。学者、知者のそれではない。でも、それを恥とは思わない。

ああ、紙面が尽きる。まだ書きたいことはたくさんあるが…。

広報委員会担当司祭 村上透磨

京都教区 青年の集い“YES”

毎年秋に行われている、京都教区の青年の集い「YES」。

YESとは、Y=“Youth”, E=“Enjoy,Encounter,Exchange,Etc…”, S=“Space”の略で、基本的には京都教区の青年が、1年に1度、気楽に集まろう！ というところで計画されました。2002年から行われてきましたが、対面での集いが難しくなって数年。「今年は実施できるのかな…？」と不安を抱えつつも、対面で仲間たちに会いたい！ という思いのもと、準備を進めています。聖書を読んでみんなで分かち合いをしたい。仲間に久しぶりに会うから、はじめは聖書かるたをやってみようか…などなど、アイデアがどんどん出てきます。

今年も秋に実施予定。11月を予定していますが、対面での実施ができるかどうかは、その時になってみないと分かりません。神様にお委ねします。詳細、申込みは京都カトリック青年センターのHPをご覧ください。京都教区の青年たち！ 集まれ！！

運営委員/河原町教会 N・O

つながりネットワーク 聖のようコミュニケーション
京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を越える青少年活動について
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
青年の各種活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも見てね！

青年センターあんでな

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



10月のお知らせ

教 区

信仰教育委員会

青年のための黙想会

日 時：8日㊦ 13:00～17:00
 場 所：望洋庵
 講 師：菅原 友明神父
 テーマ：「神はわたしに何を望むのか」
 対 象：青年男女(18歳～35歳 高校生参加不可)
 問合せ：Fax/075-366-6679
 メール/shinkoukyoikuiinkai@gmail.com
 ※案内・申込方法は各小教区あて、一斉
 メールにて配信済

聖書委員会

オンライン聖書講座

「人はなぜ病み、苦しむのか—聖書からの問い」
 6日㊦配信「病む人に寄り添うイエス」
 講師：柳田 敏洋神父(イエズス会)
 20日㊦配信「主よ、目と耳を開いてください」
 講師：伊従(いより)信子氏
 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)
 YouTube 申込者限定配信
 講座は3か月間視聴可能(有料)
 問合せ：075-366-6609 聖書委員会

広報委員会

教区時報12月号の原稿締切日は10月17日㊦です。

点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ
 障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎 (たけざき)
 裕子さんまでお申込みください。
 Tel・Fax/079-431-8601

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

9日㊦ 14:00 祈りと歌の集い
 河原町教会聖堂
 現在本来の活動は休止中。再開時、団員に
 は連絡します。

コーロ・チェルステ(女声コーラス)

問合せ：075-951-4283 則武 隆
 練 習：6日㊦ 10:00/20日㊦ 10:00
 河原町教会 2階楽廊
 問合せ：075-701-3303 岡田久美

聴覚障がい者の会・京都グループ 手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：27日㊦ 13:00
 場 所：希望の家地域福祉センター
 京都市南区東九条東岩本町31-10
 ※新型コロナの状況により中止となる場
 合もあります。

心のともしび ラジオ番組案内 (全国34局で放送)

K B S 京 都 ㊦～㊤ 朝 5:55
 ㊦ 朝 5:15
 ラジオ関西 ㊦～㊤ 朝 5:00
 ㊦ 朝 6:05

10月のテーマ「共存共栄」
 ホームページもご覧ください。
<https://www.tomoshiibi.or.jp>



<中央協議会>

日本カトリック司教団 「在留特別許可嘆願署名キャンペーン」オンライン署名活動開始
 日本カトリック司教団は、日本で生まれ育った、在留資格がなく強制送還の危機に
 さらされている外国ルーツの子供たちのため
 に、日本政府に対し在留特別許可を求めてオ
 ンライン署名活動を開始しました。
 カトリック中央協議会のホームページより、
 詳しい内容をご理解の上、オンライン署名に
 ご協力ください。

